

第2回(仮称)惣辺奥瀬風力発電事業に対する地域環境と共存・共栄できる再エネ事業の形を模索する会合 質疑応答一覧

実施日：3月20日（月） 13:00~15:30 十和田市生涯学習センター

テーマ	議題	事業者発言	地域の方々の発言（観光業関係者、第一次産業関係者、関係団体）	コーディネーターによるまとめ
自然環境	景観	<p>1. 昨年の中間報告会では、戸来岳について追加調査を行っていると回答した。現在、予測評価を始めている。準備書の中で、景観調査地点として追加し、フォトモンタージュを掲載する予定。</p> <p>2. 昨年の中間報告会にて、奥瀬の風車を削除する説明を行った。</p> <p>3. 4月の中間報告会にて、出来ているところまでの配置を提示する。冬の調査も必要であったため公開できなかった。調査の関係で絶えず修正することもあるが、段階的にHP等で提示できるような形をとり、皆様にお知らせする。</p>	<p>1. 方法書時に事業地から近い大駒ヶ岳や三ツ岳からの景観も配慮するよう県から意見があったかと思う。昨年の中間報告会時は後で回答する話だったが、現状はどうか。</p> <p>2. 十和田湖にアクセスする際、奥瀬の風力が大きいと圧迫感を与えないかという住民意見への対応はどうか。</p> <p>3-1. 事業者にて作成したフォトモンタージュは、HP等で速やかに公開していただきたい。</p> <p>3-2. 風車配置を方法書住民説明会ではすぐ出すとの話だったが、未だにでてこない。いつまでに公開するのか。</p>	<p>様々なステークホルダーが関与するテーマであるが、牧場経営が厳しい中で貴重な牧場景観を維持することが困難であることは確かである。様々な情報を集約し、いかにしてそれを解決することができるのか、風力発電との共生もその一つとして検討することが必要だと思った。</p>
文化財	十和田古道	<p>1. 古道の保全対象範囲として、現存している道もあれば、既に改変されている場所もあるかと思う。改変済みの区域に対する保全の考え方を伺いたい。</p> <p>2. 参加させていただいた。事業者として調査に協力させていただけないかと考えている。</p> <p>3. 古道フォーラムにて、蔵王古道の紹介があったと思う。地元が整備して道をつなげ、標識を作ってアピールする等、古道の活用事例があった。十和田古道において今後の保全に対する考え方を伺いたい。</p>	<p>1-1. 古道は道を保全するのではなく、全体が祈りの空間である。十和田古道の世界観全てをまもっていただきたい。</p> <p>1-2. 参考意見として「牧場内は既に改変されているが、古道の痕跡が地面の中に埋まっているとしたら発掘して見つかるかもしれない」とあるが、人の手で掘って固めた痕跡や細かい遺跡は重機で工事で気づくものなのか。参考意見として不確かなものを提示されても困る。実際に事例があり、賛同できるかどうかは別として、やっていただければと思う。</p> <p>2. 本会合の前日に十和田古道フォーラムに事業者は参加したのだろうか。フォーラムにおいてどのような知見があったのだろうか。</p> <p>3-1. 風力発電の話がなければ、ゆっくりと活動をしていく計画だった。現在は、私たちは保全を重視して動いているところである。風力発電が建ってしまったら、有識者の方には本当に終わりだと言われている。色々な方から知恵を頂きながら進めていきたい。</p> <p>3-2. 十和田神社に向かって沢山の信者の方々が歩いた参詣道である、そこに風力は本当に要らないと思う。そっとしてほしいという思いがある。</p> <p>3-3. 十和田古道は認識しているところで10ルートくらいある。今は調査段階であるが、世界遺産を考えると古道の線と奥入瀬溪流の線を結んだ面を大切にしてもらいたい。あまりにも広範囲であるため、この地に建てるのはいかがかと思う。</p> <p>3-4. 十和田古道について詳しいことは分からないが、遺産と生活が共存している部分が強いのではないかと思う。長い間培ってきたものを巨大な建造物を建てれば、世界観・空気が変わってしまうと思った。</p> <p>4. 牧場関係者として、把握している古道ではないかと思われる場所を常々歩いている。道路や環境整備を維持していかなければいけない。一番危惧しているのは、あの場所が放置され、人が行けるような場所ではなくなることだ。改善することは改善させ、共存するところはしていかなければ、ものは進んで行かないと思っている。</p> <p>維持管理については地域住民として一緒にやっていきたい。地域のみんなで守っていきたい。</p>	<p>十和田古道の世界観を地元の皆様は大切にしており、基本的に風力発電事業に反対という立場を理解した。風力発電が建つことで古道や歴史がなくなるわけではないと思う。すでに改変され、農地になっているところもありながら、今でも世界観が残っている。</p> <p>古道についてしっかり調査を行い、新しく生まれ変わらせていくために、事業者と地元の皆様と一緒に協力していくことに希望の光があるのではないかと考えた。現地を関係者全員で一緒に見るような機会があると良いと思った。</p>
	世界遺産	<p>1. 世界遺産の登録の流れについて今回資料を作成した。私どもも専門家に勉強させていただき、情報をまとめているところである。皆様の活動に役立つことがあれば情報提供させていただきたい。</p> <p>2. 意見として拝聴</p>	<p>1. 十和田湖、奥入瀬溪流、八甲田の世界遺産登録を目指している。専門家には簡単なものではないと言われている。可能性のある限り模索し、様々な意見を聞きながら、進めていくスタンスで活動している。</p> <p>2. 世界遺産登録を進めていく上で、到底賛成できるものではないと思う。</p>	<p>世界遺産登録には専門的な知見やサポートが欠かせない。全く同じではないが、これまでに世界遺産関連で風力発電事業に携わったことのある事業者だからこそ、強力なサポーターになり得るのではないかと考えた。</p>



テーマ	議題	事業者発言	地域の方々の発言（観光業関係者、第一次産業関係者、関係団体）	コーディネーターによるまとめ
<p>その他 ※当日未回答 のものは事業者 にて緑色にて補 足</p>	環境影響評価手続き	<p>1.準備書縦覧の時は法的な住民説明会を行い、住民意見を募集する。十和田市からの意見を含む知事意見、経産大臣勧告が発出される。それらを踏まえて事業計画を修正するため準備書が計画の確定ではない。準備書前にも2回目の中間報告会を行い、縦覧前にフォトモンタージュをお示したい。</p> <p>2.景観に配慮した点が第一であるが、牧場との共存や周辺山林の影響等、様々な角度からの検討をしなければいけない。当時は具体的にどこを減らすかということを決められておらず、前回の中間報告会で説明した。</p> <p>3.現地調査結果を踏まえて、工事で発生した濁水による、奥入瀬川上流域含む、周辺河川への影響が回避・低減出来るよう、排水計画を検討する。 具体的には、関係機関とも協議の上、適切に沈砂池を設置し、一定の容量を維持することや、排水の流速を抑えるために流末にフロン籠を設置すること、土砂流出防止柵を設置する等の対策を講じる。</p> <p>4.事業地周辺に生息する生き物たちへの影響を検討するために現地調査において生息の状況等を把握した。 これらの結果を踏まえ、準備書において適切に予測及び評価を行い可能な限り影響の低減に努める。</p> <p>5.環境影響評価手続きの中で、新郷村・平川市・青森市へ訪問し、事業概要の説明を行っている。その後の経過もあるため、共有する形を取らせていただきたい。</p>	<p>1.準備書が発行されると、計画が後戻りできないと認識している。 住民意見を提出してもどうこうできない状態ではないのか。</p> <p>2.計画当初より基数が減ったのは分かったが、2年前から43基から35基になる話を聞いたことがある。 なぜ今更配慮し、減らしたと言っているのだろうか。</p> <p>3.事業地は火山灰の堆積地である。昨年の線状降水帯による連日の雨で奥入瀬渓流にも影響が及んでいる。風車設置による、事業地外における水質等への影響を心配している。 地質の調査を行い、水質に問題ないということをお知らせしてほしい。</p> <p>4.事業地には様々な生き物が共存共栄をしている。その空間に風力発電機がいきなり建ち、20年間稼働すれば、生き物たちは息苦しくなるはずだ</p> <p>5.秋田県の小坂町や鹿角市の住民に本事業のことを話しているのか。 十和田湖・奥入瀬渓流のファンが日本各地にいる。 十和田市だけに事業説明の場をとめないでほしい。小坂町・鹿角市・平川市・青森市では最低限住民説明会を開催しなければいけないのではないのか。</p>	
	事業期間、撤去、保守	<p>1.リプレースについては、事業終了時に地域の下承があるかで判断する。 事業期間については、FIT制度の中で電力会社と契約期間が20年と決められているためである。</p> <p>2.来年くらいに最初に建てた風車を撤去する予定である。弊社の事例はまだない。 ※会合時は上記の通り回答いたしましたが、2019年に北海道えりも市および神奈川県三浦市にて他社より譲渡を受けた小型風車（400kW級×2基）の風車撤去を行いました。</p> <p>3.12月～4月は積雪で、アクセス路が閉鎖している。将来のメンテナンス体制については、今後検討していく。 冬場についてはスノーモービル等で現地にアクセスすることになる。 事故が発生した際は、速やかにHPIにて報告を行い、皆様へお知らせする。</p>	<p>1.撤去後はリプレース（建て替え）の議論が行われるのか。 事業期間の20年は風車の寿命だと思うが、なぜ20年なのか。</p> <p>2.貴社が管理する風車の中で20年経過し、既に撤去が完了している風車はあるのか。</p> <p>3.アクセス道路は一年中通れるわけではないと思う。事故や故障はリモート監視により分かるはずである。 冬に大きな事故があった場合、どのように対応するのか。</p>	
	事業	1.意見として拝聴	1.風力発電は自然エネルギーは必要だが、場所を選んでほしい。今の場所であれば良い。	
	情報公開	<p>1.承知した。文字起こしでの議事録を作成し、十和田市へ提出および弊社のHPにて公開する。 録音データの公開は個人情報が含まれ、プライバシー保護の観点から、そこまでの約束は難しい。</p> <p>2.意見として拝聴</p>	<p>1.このような地域住民との会合における行政への報告について、事業者の意図が含まれないよう正確に報告してほしい。録音データも提供いただきたい。</p> <p>2.議事録のHPでの公開や、市への提出の際は、当事者に報告メールをしてほしい。</p>	
	六ヶ所村 風車倒壊事故	<p>1.お知らせが遅く申し訳ない。HPについては社内を確認を行う。</p> <p>2.19年である。</p> <p>3.風車メーカーが規定する風車機器としての標準耐用年数は20年ですが、この期間で使えなくなるという事ではなく、適切なメンテナンスと運用を続けていけば、さらに長期間の使用に耐えうるものとされております。 基礎等の土木構造物は、30年は持つように設計・施工されています。</p> <p>4.誠に申し訳ない。重く受け止め、原因究明に努めている。</p>	<p>1.事故発生から本会合まで、貴社のHPを確認してはいたが、まだ事故についてのお知らせがない。 保全に関して「24時間以内に速報を流し、30日以内に詳細をだすように」と決まりがあるかと思う。</p> <p>2.倒壊した六ヶ所村の風車は何年くらい稼働していたのか。</p> <p>3.風車の耐用年数はどのくらいなのか。 構造上、20年であるならば、30年くらい持つように作るべきなのではないのか。</p> <p>4.倒壊した風車は農地にあった。毎日点検できる場所なのにもかかわらず、倒れるまで異常を確認できなかった。厳しさをもちて点検するというスタンスが事業者に足りないのではないのか。</p>	